人材開発 × 人事 マネージャー座談会

自動車事故ゼロの社会の実現をめざし、「支える・防ぐ・守る」という３つの活動に取り組むナスバで、人材開発を担当するマネージャーと人事を担当するマネージャーのお二人に、ナスバで働くことの魅力や、組織の大切にしている想いについてお話を伺いました。
これまで多くの職員と向き合ってきた立場から、これまでのナスバ、現在のナスバ、そしてこれからのナスバについて語っていただきました。仕事への向き合い方や、職員がどのように成長していけるのかなど、働くイメージを持っていただける内容になっているので、「ナスバで働く自分」を想像して読んでいただけたら嬉しいです。（令和８年２月実施）

本部総務部
マネージャー（人事担当）
花沢
令和５年４月
国土交通省大臣官房人事課より出向

本部総務部
マネージャー（コンプライアンス推進・人材開発担当）
高橋
平成７年４月　入構

〈進行役〉
本部総務部スタッフ
髙梨
令和６年４月　入構

○ナスバの歩みと変化

本日はよろしくお願いいたします。
早速ですが、高橋マネージャーは勤続30年を経過しましたが、過去を振り返って、現在のナスバはどう変化してきたと感じていますか？

私は1995年に広島主管支所で採用されましたが、その頃はパソコンがなく、文書はワープロで作成し、適性診断はペーパーテストを読み上げていました。職員がパソコンを使い仕事をする未来を想像していませんでした。2003年10月に認可法人から独立行政法人へ移行したことが最大の転換点です。会社名の変更、全国50支所の看板入替、名刺の印刷し直し、会計基準の変更、パンフレット類の変更、業務の見直しなど、職員は大変な思いをしましたが、その経験が今の組織の強さにつながっています。

○「めざすのは、自動車事故ゼロの社会。」が生む組織の力

それでは、現在のナスバの経営方針や組織の雰囲気などについて、お二人はどのように感じていますか？

理事長が掲げる「めざすのは、自動車事故ゼロの社会。」というタグラインのもと、職員一同が協力し、事故被害者を支える・防ぐ・守るという３つの使命を果たしています。組織の雰囲気は非常に協調的で、働きやすい職場だと感じます。社会的意義のある仕事をしているという誇りが、職員のモチベーションを高めています。

国土交通省より着任して初めてナスバで勤務しましたが、理事長の一貫した経営方針のもと組織が一体となって業務に向き合っており、職員の意識や能力の高さに驚かされました。また、人事マネージャーという立場上、多くの職員と話す機会がありますが、日頃のコミュニケーションからも相手に寄り添う姿勢、会話のスキルの高さはナスバの魅力であり、職員には誇りに思ってほしいと感じています。なお、理事長は職員を“人材”ではなく、“人財“と表現されます。全国50か所の支所へ複数年かけて足を運ばれ、行った先で職員のみならず契約職員等からも一つ一つ丁寧にお話を聞かれており、その中で課題を見つけ、可能な限り職員の希望や要望を組織運営に反映させるよう向き合っております。これには驚きました。髙梨さんはどう感じていますか？

お二人のお話にもありましたが、理事長の掲げる方針のもとで組織全体が同じ方向を向いていることを、日々の業務の中で実感しています。そうした共通の目標があるからこそ、互いに協力しながら業務に取り組める、風通しの良い職場になっていると思います。

○人事交流がもたらす学び

ナスバには、国土交通省（以前は運輸省）等から多くの職員が出向で来ています。
そうした出向職員の皆さんに対して、どのような印象や刺激を受けてこられましたか？
また、国土交通省から来た花沢マネージャーは、実際にナスバで働く中でどのような印象を持たれておりますか？

国土交通省から出向してくる職員は、知識や経験が非常に豊富で、私たちプロパー職員に多くのことを教えてくれます。出向職員と協力し、お互いの強みを生かすことで業務に相乗効果が生まれ、刺激的な学びの場になっています。こうした交流は、ナスバの業務をより質の高いものにしています。

ナスバの魅力に魅了され、人間力を高められる組織であると感じています。高橋マネージャーが言うように、お互いの強みを組織運営や業務にどう生かしていくかという高い意識を持って業務に取り組める組織であり、また、業務に真摯に向き合うナスバの皆様に多くの刺激を受けております。小職としては、この席に座らせて頂いている意味を考え、国土交通省で学んできた専門的知識をどのように活用し、どうすればナスバの職員が安心して働きやすくなるかを考えながら日々業務に向き合っています。

○「支える」「防ぐ」「守る」の３本柱

ナスバは大きく３本の業務の柱があり、職員は全ての業務に関わる必要があります。その上で職員に求めることは何でしょうか？

ナスバは「自動車事故被害者を支える」「自動車事故を防ぐ」「自動車事故から守る」という３本柱の業務を担っています。職員には、この大義ある業務を誇りに思い、心のこもったサービスを提供してほしいと考えています。専門知識だけでなく、人に寄り添う姿勢が求められます。

３本の柱は別であるように見えても全てが繋がっていると思っています。やりたいことはそれぞれでしょうし、得意・不得意な分野があるかもしれませんが、縦割りではなく、３本の柱を総合的に意識して取り組む、熱意を持って向き合っていく姿勢が必要に思えます。

○大切なのは信頼関係を築き、組織に誇りを持つこと

お二人には多くの後輩がおり、様々な後輩を指導・教育してきたと思いますが、指導・教育をしていく上で大事にされていることはどのようなことでしょうか？また、長くナスバで勤めるために、職員にとって必要なこと（心構え等）は何でしょうか？

一人ひとりの能力や価値観を尊重し、後輩が成長を実感できる指導を心掛けています。コミュニケーションを大切にし、傾聴を意識して信頼関係を築くことが重要です。長く勤めるためには、柔軟な姿勢と前向きな心構えを持ち続けることが不可欠です。

同感です。まずは信頼関係を構築することに力を注いでいます。管理職という立場上、厳しく言わなければならないこともありますが、それを受け入れてもらうためには、自ら実践するとともに日々のコミュニケーションから構築される信頼関係が重要です。また、相手を否定しない、悩みは共に考えていくことを意識しています。そして、ナスバ、国土交通省関係なく長く勤めるためには、その組織を好きになること、その仕事に誇りを持つことからだと思っています。

○ナスバが求める人材とは

ナスバでも毎年多くの職員を採用しておりますが、昔と今で新人に対する印象の変化はありますでしょうか？また、現在のナスバに必要となる人材としてどのような新人を求めておりますか？

今の新人は真面目で優秀な方が多い印象です。ナスバでは、どんな業務にも主体的に取り組み、学ぶ気持ちを忘れず、仕事と共に成長できる人材を求めています。社会的使命を理解し、責任感を持って行動できる方にぜひ来てほしいです。

昔の新人はわかりませんが、何年も経験した中堅職員や管理職の皆様を見ていると真面目に業務に向き合っており、そして人柄が良く、働きやすい職場であることから、寄り添える、優秀な先輩達がいたのだなと感じます。
今、どのような人材を求めると言えば、業務で必要なスキルは採用後に頼れる先輩が丁寧に教えてくれますので、具体的なスキルは必要ありません。多くの就活生と面接をしていますが、小職が意識することは前向きな姿勢、会話のキャッチボールを重視しています。ナスバの仕事は人と接する機会が多いため、うまく話せなくても、前向きに、会話をつなげていこうと努力する人材を求めています。
髙梨さんは採用されて２年が経過しようとしていますが、どのような後輩が欲しいですか？

私自身、まだ学ぶ立場にありますので、自分も意識すべきことではありますが、何でも吸収しようとする姿勢や、分からないことを素直に聞ける謙虚さはとても大切だと感じています。そのような後輩と、互いに学び合いながら働けたら嬉しいです。

○ナスバで働く「幸せ」とは

今、お二人はナスバで永く勤めてきて幸せですか？
幸せであればその理由をお聞かせください。

幸せです。本部や地方機関、国土交通省、療護センターなど様々な場所で働き、多くの職員と協力しながら成長できました。家族と仲良く過ごせるのも、ナスバで働いているおかげだと感じています。仕事と生活の両立ができる環境に感謝しています。

もちろん幸せです。ナスバは仕事の内容が社会にとって大変意義があるものであることはもちろん、これまで話したように人間性で学ぶべき、尊敬すべき職員が多く存在しますので、自身の人間力を高めることができると感じていること、そして風通しの良さはナスバの大きなPRポイントであること、これが大きな理由です。ナスバで働くことができて本当に良かったと言い切れます。これは現在ナスバで働いている皆様にも伝えたいことですね。

お二人のお話を伺い、永く勤める中で成長ややりがいを感じてこられたことが伝わってきました。将来、お二人のように胸を張って「幸せです。」と言えるよう、日々の業務に真摯に向き合っていきたいと思います。

○就活生へのメッセージ

就活中でナスバを目指す学生等に声をかけるとすれば、どのようなことでしょうか？

星の数ほどある会社の中でナスバを見つけたあなたは素晴らしいです。一緒に「めざすのは、自動車事故ゼロの社会。」を目指して働きましょう。社会に貢献できるやりがいのある仕事が、ここにはあります。

就職先を決めることは、人生にとって大変重要な決断です。簡単に決めることはできないものです。その中でナスバを選んでくれることを期待しておりますが、採用されてから言っていたことが違うと言われぬよう、理事長の強力なリーダーシップのもと、職員が安心して働ける組織であるために日々努力しています。安心してナスバを選んで下さい。

私も就職活動ではたくさん悩み、不安を感じていました。そんな中で、「社会に貢献できる仕事がしたい」という自分の軸を大切にしていたところ、偶然ナスバを見つけ、「ここで働きたい」と思いました。皆さんにも、自分の軸を大切にしながら、納得のいく選択をしてほしいです。そしてその結果、ナスバを選んでいただけるのなら嬉しいです。

お二人とも本日はありがとうございました。